

哀しい伝説を残す桜

こんぴらかいどう

げんたざくらしゅうへん

金毘羅街道・源太桜周辺

土谷

H18.11.1 前回取材 114人 世帯数 57

H21.7.1 現在人口 126人 世帯数 59



当時は人力車も通れる3mの道幅があったが、現在は人が一人通れるくらいの山道。



江戸時代に阿波の商人が旅人の安全を祈り建てたお地藏様。

馬の治療所
馬に灸をすえていた！



げんたざくら
源太桜

対岸には川に流された馬の供養地藏がある。

あけぼの橋跡
5

徒歩20分

らくらコース！

中山川逆調整池堰堤の看板を下る。



愛媛県道前道後発電所

なめかわ
滑川

健脚コース！
あけぼの橋
●レプリカ

土谷橋

●レストパーク
桜三里 Pwc

桜三里霊園前
(松山メモリアルパーク)



源太桜まで約1500m

橋のもとにある案内板

源太桜
貞享四年、松山藩士矢野五郎衛門源太が囚人を使役し、山道に沿って八二四〇本の桜を植えた。「桜三里は源太が仕置き、花は咲くとも実はなるな」苛酷な労役にたえかねた囚人たちがうたったという。(2004年8月 広報かわうち参照)
桜三里の名前の由来となった樹齢三百年以上の桜。現在は2本残っていて、小峠口から行くと手前は白、奥はピンクの花が咲く。毎年四月第一日曜日に源太桜祭りが行われ、三百人の人出でにぎわう。
※桜の季節以外は道が整備されていない。特に夏以降は、草が生い茂るため危険！

オオノ開発
ひわだとうげ
至松皮峠

大型トラック
往来注意！



追いはぎも出たという松皮峠

1 札場

至松山

11
二子松



土谷に残る道標

つちや
土谷

徒歩20分
道標

2 WC P

4

5

至西条

11

田桑

落出

① 札場

かつて金毘羅詣やお山詣りでにぎわう宿場町だった。金毘羅道と土州・久万街道の分岐点。当時の道標が今も残る。

② 土谷小学校跡

昭和 41 年に廃校。かつて相之谷（右地図参照）からも子ども達が通っていた。現在は集会所になっている。校庭には源太桜二世と馬継ぎ石がある。



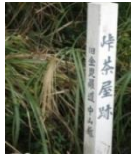
馬継ぎ石

③ 小峠入口

案内版から 300 メートル歩くと「左こんひらみち」の道標。その傍らに常夜灯とお地蔵さんがある。街道沿いには途中で亡くなった旅人の無縁仏が点在している。

④ 峠茶屋跡

二階建てと平屋の 2 軒の茶屋があった。近くにお地蔵さんがある。かつて土谷小学校へ通う子ども達はその頭を蹴りながら行き来きしてなくしてしまったそうだ。15 年くらい前に偶然見つけると頭は元に戻された。

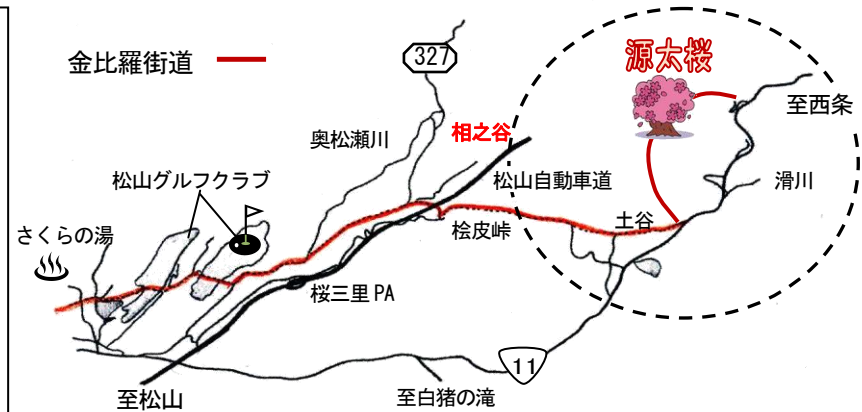


⑤ あけぼの橋跡

源太桜から歩いて 2～3 分。橋には屋根がついていたので寝泊りする人がいたそうだ。大正初めに取り壊され、今はダム湖に。対岸には石地蔵がある。



あけぼの橋レプリカは小峠手前と土谷小学校跡



取材にぼれ話



金毘羅街道は中之町から、松瀬川、椋皮峠を越え、源太桜へ続きます。

現在の東温市斎場桜花苑がある辺りが椋皮峠（ひわだとうげ）の頂上になります。当時は茶屋があったそうです。峠を越えるとなだらかに下り、オオノ開発（産業廃棄物処分場）の前を通り土谷に至ります。土谷は明治時代まで宿場町として栄え、今もその屋号が残っているそうです。

土谷小学校跡に車を置き源太桜案内版で左折。その集落はすべて 70 歳代の S さんに出会いました。その場でお手製の杖を作ってもらい、季節外れの「源太桜」を案内してもらいました。

旅の途中で行き倒れた人々の話、怖い形相をした侍が道を急いでいた話、遠く離れた畑に肥を担いで運んだ孝行者の姉妹の話など、険しい山道と一緒に歩きながら、江戸・明治から現在に至る街道の様子を聞きました。

聞けば S さんが 12 才の時に 80 歳のおじいさんから聞いたのだといいます。街道で起こった様々な出来事やそれぞれの時代に生きた人々の暮らしに思いを馳せ、時の流れを感じました。

下草刈やお祭りなど、今も地元の人々は桜や街道を守り続けています。これからも地元の財産として語り継がれていくことを願います。

